

令和2年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第8号（水稻）

令和2年9月1日発表
 広島県西部農業技術 指導所
 対象期間 令和2年8月下旬～9月上旬



1		予報内容（9月上旬まで）		
病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	中生	並 (葉いもち)	並	◇出穂前後の降雨により、穂いもちの発生は助長される。 ◇葉いもちの発生が多かったほ場では、特に穂いもちの発生に注意する。 ◇にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除する。
トビロウカ		多	多	◇中国地方1か月予報では、今後発生に好適な気象条件となっている。 ◇9月上旬収穫予定の早生品種で被害が確認された場合、可能な範囲で早刈りを行う。 ◇9月中旬以降収穫予定の品種で被害発生が多く予想される場合、薬剤の使用時期（収穫前日数）、使用回数等使用基準を遵守して防除を行う。 ◇飼料用稲や飼料用米の防除を行う場合には、実需者に防除の可否を確認し、「稲発酵粗飼料生産・給与マニュアル（（一社）日本草地畜産種子協会作成）」、「飼料として使用する粳米への農薬使用について（農林水産省通知）」を参考にを行う。 ※8月13日発表の予察情報警報第1号及び9月1日発表の予察情報技術情報第4号を参照する。
斑点米カメムシ類（カスミカメムシ類、その他加害種）※1	中北部※2	—	やや多	◇加害力の高いクモヘリカメムシの発生が、平年に比べ多くなっている。 ※1 カスミカメムシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類、その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。

※2 中北部とは、中西部、中東部、北部を合わせた地帯

(1) 穂いもち（中生：13 地点調査）

◆巡回調査結果（中生：並（葉いもち））

	本年	平年	前年
発生地点率（%）	15.4	42.6	15.4
平均発生程度	1.02	1.07	1.01

(2) トビイロウンカ（※40 地点調査）

◆巡回調査結果（多）

	本年	平年	前年 （注意報発表年）
発生地点率（%）	95.0	14.6	38.5
平均発生程度	2.56	1.05	1.17

※本年は、通常の26 地点に加え新たに14 地点で調査を実施。

予察田（呉市安浦町）における8月第5 半旬の100 株当たりの発生量は、1344 頭であった（平年18 頭/100 株、前年（注意報発表年）92 頭/100 株）。

向こう1 か月の気象は発生に好適となっている。

(3) 斑点米カメムシ類

◆牧草地すくい取り調査結果については、7月15 日発表の予察情報予報第3号を参照する。

「予報」「現況」は、「多～少」の5階級に区分して発表しています。区分の方法は、原則として、過去10年の数値を発生が多かった順に並べて、相対比較しています。

「多」： 1番目（最多年）と同程度以上

「やや多」： 2～3番目と同程度

「平年並」： 4～7番目と同程度

「やや少」： 8～9番目と同程度

「少」： 10番目（最少年）と同程度以下

区分	多	やや多		並				やや少		少
順序	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

3

その他の病害虫の発生状況（現況調査：8月25～27日，26地点調査）

病害虫名	現況
紋枯病	やや少
ヒメトビウンカ	やや多
セジロウンカ	やや多
コブノメイガ	多

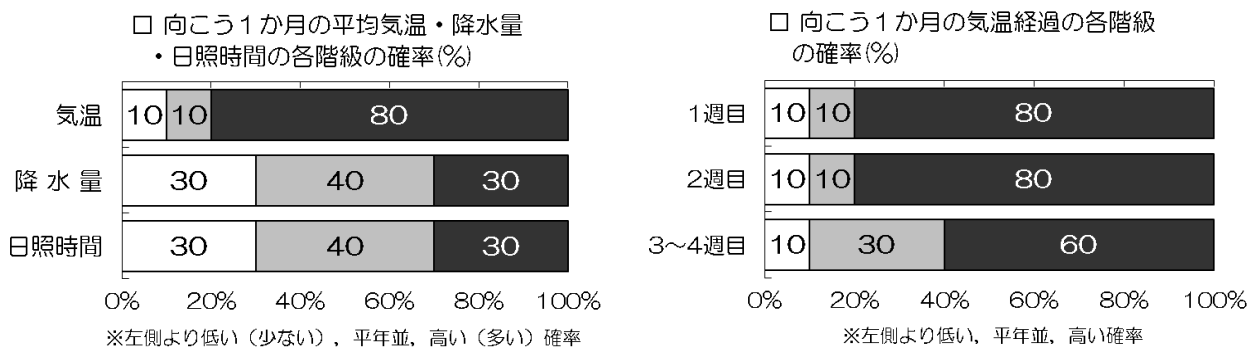
4

気象情報

中国地方1か月予報（広島地方気象台8月27日発表，8月29日から9月28日までの天候見通し）

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は，高い確率80%です。日照時間は平年並または多い確率30%と予報されています。



○病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは，広島県ホームページで閲覧できます。

ひろしま 農業情報 **検索**

○お問合せ先：広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
（東広島市八本松町原 6869 tel：082-420-9662）